広報伊方町

発行人 愛媛県西宇和郡 伊方町
編集 伊方町町民室
印刷所 尾上印刷所 八幡浜市天神通 電話③0091番

住民自治の殿堂

庁舎を建設

七、一〇〇万円の巨費を投入

本年度一般会計当初予算のなかで新しい町づくりの拠点である庁舎建設費として設計委託料、仮庁舎移転費を含めて七、一〇〇万円の巨費を計上いたしています。

現在の庁舎は、昭和九年九月二郡内随一の豪華な建物に生まれかわり十五日に木造モルタル仕上げで建設され、当時は偉容を誇っていたものが、約三十五年の歳月とともに老朽ははなはだしく、また、職員の増加による事務所狭少のため、現在の庁舎跡へ新庁舎が建設されるため、仮庁舎を設け役場業務を行なかなくてはいけません。

そこで仮庁舎として中央公民館を利用して五月十九日から仮庁舎で業務を開始します。

町民のみなさんには、たいへん不便を感じたり、お手数をかけることもあろうかと思いますが、何分のご協力をお願いします。

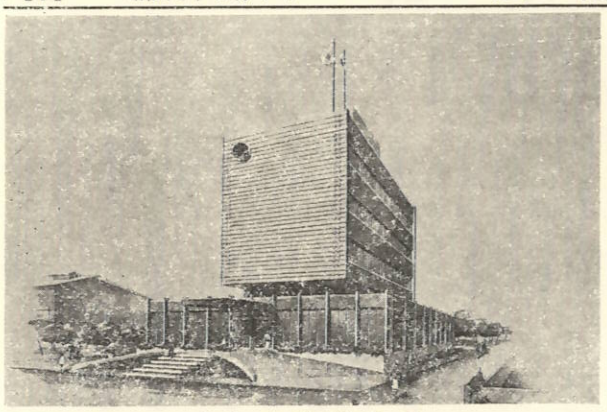
なお、仮庁舎での各課、室などの事務配置状況は、下欄の図面のとおりですから、お知らせします。

本年度予算のなかで一大事業として建設の運びとなったものです。

新庁舎は、中地階、塔屋を含め六階建で延面積一、五六五㎡(四七三坪)を有し庁舎としては四階は議場、議会専用室、議会事務局、録音室、塔屋などの規模を有しており、住民に愛され、親しまれる近代的で能率的な明るい庁舎として完成されます。

建物の構造は、中地階は駐車場、自転車置場、倉庫、一階が事務室、宿直室など、二階は事務室、町長室、教育委員会、三階が会議室、和室の会議室、書庫、職員食堂、建設課、水道課、民生課、保険課、戸籍係、会計室、議会事務局、税務課、産業課、農委事務局、教育委員会、会計室、議会事務局、税務課、産業課、農委事務局、教育委員会、会計室、建設課、水道課、民生課、保険課、戸籍係

建設場所は、現在庁舎の敷地跡で今月末から工事が着工され明年一月ごろ完成が見込まれています。

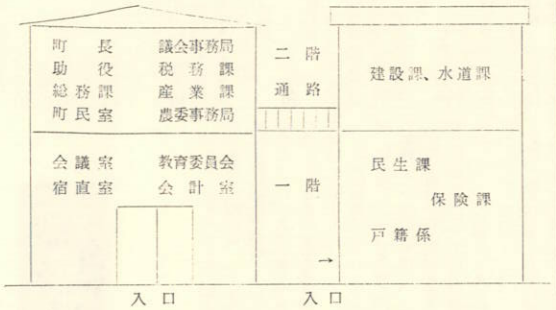


——庁舎完成予想図——

仮庁舎は

中央公民館で

仮庁舎各課、室の配置図



明るい・豊かな

町つくりへ前進

昭和44年度一般会計 三億一、三四二万円にきまる

昭和四十四年度町行政の大綱をきまる第五十六回定例町議会は、三月十一日招集され会期十一日間にわたって開かれ、三億一、三四二万円の昭和四十四年度当初予算など十八議案が上程され慎重審議の結果、全議案原案どおり可決されました。

予算の使いみち

四月から使われる昭和四十四年度町の台所予算ができあがりました。昨年の当初予算にくらべて六、二七〇万円多い三億一、三四二万円の大型予算に決定いたしました。

このなかで、なんといっても特筆されるのは庁舎建設事業です。新しい時代に即応した行政施策を推進し、住民の行政要求に満度に答えて行くには、それなりの機能を有していることが大切です。そのため、現在の庁舎ではどうしても狭少で住民の要求を完全に消化しているとはいえません。

そこで、住民サービスをモットーとして誰にでも親しまれる庁舎が建設されます。

このほか湊浦に浮桟橋が建設され定期船の発着が便利になります。

これらとしの予算がどのように使われるか簡単にのぞいてみましょう。

使われるお金

歳出

使われるお金の首位は総務費で余体の三七%もしめていますが、これは本年度の大事業である庁舎建設費が計上されているからです。

つづいて土木費、公債費、教育費となっていますが、下欄に掲げているカットをみながら、その内容をみてみましょう。

議会費 五七〇万円

これは、議員さんの報酬三二五万円や旅費、議会事務局の職員の給与や手当がその主なものです。

総務費 一億一、五八一万円

使われるお金の横綱は、昨年度の教育費よりバトンタッチされ、この総務費にかわり、全体の三七%にあたり六、八二一万円多くなりました。

これは、庁舎建設費に七、一〇〇万円計上されているほか、河内部落集会所新築工事として四五〇万円。

このほか職員の給料や手当、交通安全、防犯対策費、体力つくり推進費や区長さんの報酬などが主なものですが、この広報紙の印刷に必要な経費も含まれています。

民生費 三、〇八五万円

この民生費には、町内五カ所の保育所の運営に必要な経費二、三四八万円が大半で民生費のなかで七六%をしめています。

国民年金に必要な事務費一六八万円や隣保館運営費、老人クラブの活動費が主なものです。

衛生費 一、〇六四万円

八西衛生事務組合負担金 一、二三四万円

〔し尿処理費〕二二八万円

助産所の運営費 二二一万円

母子健康センター費 八〇万円

成人病、結核、伝染病、流感などの予防費 一九八万円

また、このなかには、野犬の買上げ費も含まれています。一匹を一〇〇円で買上げます。

不用犬のいる家庭は役場または町見支所までつれてきてください。

労働費 七九三万円

失業対策事業に必要な賃金、給料、原材料費が主に計上されています。

農林水産業費 一、二三四万円

農林水産業費のなかでトップは農業振興費で五一%にあたる六三四万円が計上されており、その主なものは、農家のみなさんが借りた。

災害資金の利子補給 三八三万円

近代化資金利子補給 一一九万円

農林漁業資金元利補給費 一六八万円

また、ことし新しく設けられた総合農政推進調査研究費一〇万円水産業費では、昨年度の継続事業である九町物揚場新設工事費に一〇万円。

ことし最終年度を迎えた沿岸漁業構造改善事業の並型魚礁設置に六九万円などが計上されています。

商工費 六一万円

商工振興費として町の中小企業振興融資の信用保証協会への預託金三〇万円。

商工会補助金 一五万円

杜氏組合補助金 七万円

土木費 五、〇九五万円

昨年度に比較して二、一七六万円増額され、使われるお金の第二位をしめています。

その主なものは、

高汐対策工事費 一、六八四万円

この事業は五カ年計画で工事を進めて、ことしで三年目を迎えました。

伊方港局部改良事業 一、二五六万円

定期船の発着を便利にするため役場前に延長二四m、幅七m、高さ二・六mの浮桟橋を建設し、また、この浮桟橋には鉄骨造りの延長一六m、幅二、二mの渡り橋も同時に建設されます。

町道川永田豊之浦線新設工事費 五〇〇万円

国道一九七号線から豊之浦部落へ通じる旧道にそった人家までの延長八〇〇m、幅員四mの町道が新設されます。

これで豊之浦部落としては、ミカン、夏柑の運搬が便利になることは勿論、待望の人家までの車乗り入れが実現されるわけです。

湊浦護岸災害関連工事 五〇万円

伊方町農協前の物揚場の整備です。

消防費 二四一万円

これは、消防団員の

報酬 七〇万円

出動手当 二一万円

消防団員退職報償金組合負担金 七五万円

(二面へつづく)

使われるお金

教育費 2,752万円(8.8%)

商工費 61万円(0.2%)

衛生費 1,064万円(3.4%)

議会費 570万円(1.8%)

災害復旧費 568万円(1.8%)

土木費 5,095万円(16.3%)

労働費 793万円(2.5%)

総務費 1億1,581万円(37.0)

公債費 3,868万円(12.3%)

消防費 241万円(0.8%)

農林水産業費 1,234万円(3.9%)

民生費 3,085万円(9.8%)

（一面よりのつづき）

このほか、ポンプ操法競技大会や出初式、修繕料など主に計上されています。

教育費　二、七五二万円

教育費に主に計上されているものは、

六つの小学校に要する経費　八三六万円

二つの中学校に要する経費　六八一万円

この中学校費のうち、生徒の体位向上のため、本年度は中学三年生を対象として机、椅子を新しなどからお金を借りる町債の一八％、国庫支出金一二％の順になっています。

学校給食センター運営費　四三〇万円

社会教育経費　二三一万円

青年団、婦人会、PTAなどの育成費が計上されています。

災害復旧費　五六八万円

湊浦物揚場復旧工事二三三万円

町道単独災害復旧費一〇〇万円

亀ケ池線復旧工事費　九八万円

中浦突提復旧工事費　七四万円

宇和島沖地震によって被害を受けた現在の突提復旧工事です。

公債費　三、八六八万円

これは町で国などから長期にわたって借りたお金を返す費用で、使われるお金の一二％にあたります。このうち町が借りた借還元利金として二、二三〇万円利子が一、六三六万円計上されています。

予備費　四三〇万円

職員の給与財源として四三〇万円計上されています。

入ってくるお金　歳入

昭和四十四年度町の台所へ入ってくるお金のうち、一番多く入るのは、地方交付税で一億四、二一〇万円で全体の四五％もしめています。

ついで町が事業を行うために国庫支出金一二％の順になっています。

町民のみなさんが納める町税は四番目で入るお金の八％にすぎません。また、町が一般的に使える財源が全体の五三、四％となっていますが、つぎに円グラフによって、入るお金のあらましをみてみましょう。

町税　二、五四九万円

町税の明細は、円グラフに掲げているとおりですが固定資産税がトップで町税の約五〇％にあたります。ついで、たばこ消費税、町民税とつづいています。

たばこ消費税は、町民税よりも多くなっております。愛煙家のみなさんが町内でたばこを買うことによって町収入がふえ、町の台所の大きな財源になっています。たばこはぜひ町内で買ってください。

地方交付税　一億四、二一〇万円

町の人や施設などに対して国が定めた基準の必要経費に対し、町の自己財源で不足する額を国が交付金として交付されるもので入るお金の四五％をしめ、昨年度当初予算にくらべ二、五三〇万円増額となっています。

町債　五、五九〇万円

町が国などから借りるお金です。これには、

庁舎建設債　四、五〇〇万円

川永田豊之浦線道路新設事業債　五〇〇万円

高汐対策事業債　一七〇万円

港湾建設債（浸校舎）一六〇万円

公共災害復旧債　一四〇万円

単独災害復旧債　一二〇万円

以上がそれぞれ借入られます入るお金の一二％に当ります。

国庫支出金　三、八七九万円

国が行なう事業に対して補助金をだすもので、町に入るお金の第三位にあたります。おもなものは保育所の運営補助金　一、八九万円

高汐対策事業補助金　一、〇〇〇万円

港湾建設事業補助金四七〇万円

失業対策事業補助金四三六万円

昨年度と比較してみれば七三二万円へっています。

県支出金　一、七六八万円

県の補助金として主に入るものに高汐対策事業補助金三三三万円、港湾建設事業補助金三一三万円、災害融資利子補給　三一万円、保育所運営補助金　一五一万円、河内集会所新設補助一四三万円、助産所運営補助金一一七万円が県の補助金として入ります。

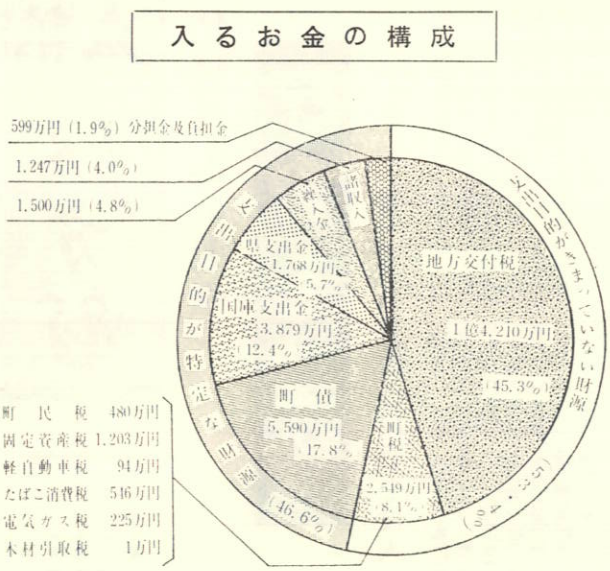
分担金及負担金五九九万円

この収入は、保育所へお子さんをあずけるため、みなさんが支払う保育料五八五万円や、学校安全会共済掛金の保護者負担金一〇万円が主なものです。

繰入金　一、五〇〇万円

諸収入　一、二四七万円

この諸収入のなかには、河内集会所新築にあたり同部落出身で神戸市に在住の藤常敦義氏の寄付金三二五万円、自動車取得税交付金三二五万円（道路財源）や、母子健康センターや火葬場の使用料、戸籍謄抄本の手数料、預金利子などが諸収入の主なものです。



よろこびの声

二見小すばらしい校舎できる

◇◇理想的な教育環境◇◇

昭和四十三年度伊万町行政のなかで中央公民館建設、九町小学校屋内体育館建設、農事センター建設などとならび大きい事業であった。

同校舎の施設の特徴は、立派な二見小学校々舎が陽春の光を浴びて完成いたしました。

同校舎は鉄筋コンクリート二階建、延面積八六三㎡を有し、総工事費は一、四五〇万円で、これに付帯工事費一五〇万円を加えますと総額一、六〇〇万円の巨費を投入して、近代的センスあふれる校舎に生まれかわりました。

以前の校舎は昭和二八年に建設され、二十五年間の風雨に老朽化し、PTA関係など多くの人々の要望が実り、ここに台風がきても びくともしない建物になりました。

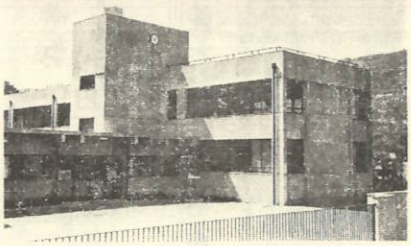
校内放送施設を有しているほか、各クラスごとにテレビを一台づつ設置し、テレビカメラを活用して視聴覚教育に役立てるようになっていることです。

建物の構造は一階が、三つの教室、理科室、理科準備室を設けており、室内は明るく、静かで理想的な教育環境となり、また、屋上へあがれば加周池が全望でき二見小学校ならではの、独得の風致をかもしだしています。

よく教育は国家百年の大計といわれますが、優れた国柄をつくるには何といっても教育ほど大切なものはありません。

ここに立派な校舎の新築により学校教育の成果が一段と高まることが期待されます。

この新しい立派な校舎に恥じない"二見小っ子"として、強く正しく、仲よく、みんなすくすくとよい子に成長してください。



立派な校舎に生れかわった二見小

鼻が高くなる校舎

二見小学校六年　平尾文人

ぼくらの教室も窓が大きく、日光がさしこんで、あたたかい教室です。この教室で学んでいるとまえに講堂で学んだ時のことを思い出して見ます。冬は、すき間風がはいり、ふるえながら勉強したことなど、いろいろなことが思いうかんできます。

しかし、今の教室では、その心配はなく、となりの教室からの雑音も少しも聞えません。このようなかんきょうで学ぶのは、たいへんしあわせですが、ぼくらはもうしっかりしなければなりません。

ぼくらは、西宇和郡内で、このような学校は、河内集会所新築にあたり同部落出身で神戸市に在住の藤常敦義氏の寄付金三二五万円、自動車取得税交付金三二五万円（道路財源）や、母子健康センターや火葬場の使用料、戸籍謄抄本の手数料、預金利子などが諸収入の主なものです。

ぼくらは、西宇和郡内で、このような学校は、河内集会所新築にあたり同部落出身で神戸市に在住の藤常敦義氏の寄付金三二五万円、自動車取得税交付金三二五万円（道路財源）や、母子健康センターや火葬場の使用料、戸籍謄抄本の手数料、預金利子などが諸収入の主なものです。

特に新しい放送設備は完ぺきでクラスごとにテレビが一台づつあり、校内放送もここから放送されます。ぼくらの顔がうつった時はちょっぴりスターになったような気がしました。

また、理科室の設備も新しく理科の勉強や実験が楽しくなりそうな明るい教室です。

ぼくらは、遠方から通学しているものもいます。ぼくらは、遠方から通学しているものもいます。

ぼくらは、遠方から通学しているものもいます。

お米の配給制度改善

「登録店廃止で」「どこでも買える」

配給制度は昭和十七年食糧難当時に制定されたもので、その後、需給状況の変化により「配給米」はあまりなしまれていないようですが、しつはみなさんが毎日食べているお米はすべて「配給米」なのです。

生産者は農協を通して政府にお米を供出（売渡）し、政府は卸業者・小売業者を経て消費者に毎月規定量を配給しているのです。

しかし、最近はパン、牛乳などの普及により、お米の消費量が減少していることや豊作続きで、政府の買い入れたお米があまっておりこれら配給米の適当な運営を確保するため、今回配給制度が改正されました。

改正の主な点はつぎのとおり

①消費者と小売販売業者の結びつき登録の廃止

消費者の利便を図り、あわせて消費者の自由な選択を通じて小売業者相互間に適正な競争を導入するため結びつき登録店を廃止し、消費者は町内どこの小売業者からでも配給を受けることができます。

②配給基準量の引上げ

消費者一人一カ月当り十キロから十五キロに引上げられました。

町内のお米小売販売業者は、つぎのとおりです。

左記の小売店であれば、どこの店からでも購入することができます。

小売販売業者名　住所

伊万町農協　湊浦

町見農協　九町

村岡樟郎　大浜

葛城光長　中之浜

吉原功治　河内

山口春美　湊浦

岡田政志　川永田

井上学　豊之浦

（敬称略）

◎お米小売販売価格

品目	精米正味十キロ
内地米	一、五一〇円
徳用上米	一、二五〇円
徳用米	一、〇二五円
水稲もち米	一、八一〇円
陸稲もち米	一、七三〇円

「実践」の文字も鮮か

佐々木記念公園に記念碑

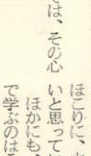
佐々木長治氏の功徳をたたえ、伊方実践農業学校卒業生一同が実践農業学校跡の佐々木記念公園（昭和四十二年完成）に「実践」の文字も鮮かな記念碑を建立し、四月十五日桜花らんまんの好季節のもと、佐々木長治氏を迎え、卒業生約二〇〇人が参列して盛大に除幕式が挙行されました。

式はます、神事が行なわれたあと、除幕にうつり、伊方保育所二人の園児の手によって白い布がこころよい春風にたなびかされて除幕されると、「実践」の碑文が大きく、深く刻みこまれた高さ一、八m、横一、三mの堂々たる自然石（青石）の姿があらわれると思わず拍手のウズが記念公園をこだました。

この記念碑の建立によって、伊方中学校のシンボルである佐々木記念公園も一段と風格を増し、さらに同校も歴史的、精神的な規範となって精進され、立派な校風を築きあげてほしいものです。

また、この建立にあたっては、みのり会役員の方々の努力はもちろんであるが、卒業生のみの力で短期間のうちに見事な記念碑に仕上げたことは、なおさら意義深いものがあります。

十　救急クイズ（7）



乗物に酔って気持が、悪くなりました。どうしたら、よいでしょうか。

（答は四面に掲載しています）

伊方町百年の歩みと夢

……盛大だった展示会……

明治百年事業の最終を飾る〝伊方町百年の歩みと夢〟の展示会は四月九～十一日まで中央公民館大ホール、十四～十六日まで町見支所会議室で計六日間にわたり開かれました。

展示物は町内のみなさんに呼びかけ出展されたもので、貴重な資料や珍しい民俗品が三百余点も集まり、初日から多数の見物客が訪れ、たいへん人気を呼びました。

展示会は庄屋、戸長、郡役所から町村合併にいたる地方行政の流れをまとめた「自治の歩み」

明治百年のうち約五十年が、日清、日露、第一次大戦、日華事変第二次大戦の五つの戦争にあけくれた激動の時代をあらわし、特に本町に関係深いもので昭和十五年満州に伊方村ができ、移民荘河伊方開拓団が入植した当時の資料や同、二十年予科練習生三十三人が湊浦で勤労奉仕したときの寄せ書き、記念写真などを飾った「戦争と郷土」

学校の歴史が一望でき、町内各小中学の今昔のうつりを示した「学校百年」

果樹、水田、畜産、水産、養蚕、海運、石船鉱山、伊方杜氏とも人気集中した古銭収集などの「百年アレコレ」

明治、大正時代に町内の商家が利用した色刷り広告や、チンドン屋が使用した宣言ビラなどの「昔の広告」

手鏡、印ろう、矢立て、カンテラ、日時計や明治三十二年の消防ポンプ（龍吐水）など民俗資料を集めた「昔の民具」

「郷土の記録」

町内各小学校生徒が、伊方町の将来の夢を描いた図画や作文集が展示された。「伊方の夢」の九項目に別かわ展示されました。

六日間で町内各小学校生徒一、九五〇人、一般六〇〇人の観覧があり、遠くは八幡浜市、保内町からもわざわざ見物にくる熱心な人もあり、盛況なうちに終了いたしました。

この展示会が成功裡に終わったことは、町内のみなさんが協力的に貴重な資料を出展していただいた賜ものです。

ここに厚くお礼申し上げます。

貴重な資料や珍しい民俗品がいっぱい。人気を呼んだ展示会。

第19回自醸酒品評会

優等一位に〝大鏡〟

古い伝統と歴史を誇る西宇和郡杜氏組合主催の自醸酒品評会は、四月十一日、十二日の二日間役場大会議室において開かれました。

ことしで迎えて第19回目の品評会は二六六点が出品され、寒冷のなかで各杜氏さんが精魂こめて造った原酒の中で、蔵一番できのよい酒を吟味して持ちより、日本酒正中立な立場で審査され、その結果、田中善吉氏（仁田之浜）の自醸酒〝大鏡〟（醸造元西条市合資会社大鏡酒造部）が晴れの優等一位に輝き、優勝旗ならびに賞状が授与されました。

今後もより一層技術に磨きをかけ酒造水準向上にはげまれ、古い伝統と技術をいかし、伊方杜氏の名声を天下に高めてほしいものです。

審査会場は新酒の香りが漂い、一点づつ「唎じょく」にそそぎこまれた酒を高松国税局田丸二三人、猿渡一由両鑑定官、愛媛県酒造連合会平岡満一、川本政安の両氏、計四名の審査員によって厳正な原酒の中で、蔵一番できのよい酒を吟味して持ちより、日本酒正中立な立場で審査され、その結果、田中善吉氏（仁田之浜）の自醸酒〝大鏡〟（醸造元西条市合資会社大鏡酒造部）が晴れの優等一位に輝き、優勝旗ならびに賞状が授与されました。

今後もより一層技術に磨きをかけ酒造水準向上にはげまれ、古い伝統と技術をいかし、伊方杜氏の名声を天下に高めてほしいものです。

品評会の一位から三位までの成績はつぎのとおりですが、このほかに優等酒として五十九点が選ばれ昨年より十一点多くなっていることは、誠によろこばしく技術向上の跡を物語っています。

成績	酒名	杜氏氏名
優等一位	大鏡	田中善吉（仁田之浜）
〃 二位	賀寿美	根来昌則（西）
〃 三位	日本心	上田益男（大浜）
一等	堀内初雄（大浜）	
〃	大沼和明（亀浦）	
二等	阿部一幸（亀浦）	
三等	小笠原一夫（中浦）	
四等	山口梅男（川永田）	
〃	佐々木勝久（川永田）	

第1回老人福祉大会

元気に500人参加

明治百年を記念して第一回伊方町老人福祉大会が四月七日伊方中学校体育館において、町内の老人五〇〇人が元気に参加して盛大に挙行されました。

明治、大正、昭和と三代にわたり波らんに満ちた時代を力強く生き抜かれ、厳しい自然条件や、あらゆる悪条件を克服して今日の伊方町発展の基石を築かれた老人を一堂に集め高齢者を尊敬し、敬愛の思想を一層高め老人の福祉向上をめざして行なわれたものです。

大会は、大本助役の開会のことばのあと、伊方中学校ブラスバンドの演奏で国歌斉唱があり、つづいて山本町長、井田福寿会々長の元気のあいさつ、そして永年老人クラブの役員として活躍された方々や、優良老人クラブの表彰式などがあり、記念講演に入りました。

記念講演は「老人と健康」と題して元関西学院大学講師多羅尾雅治氏、「明治百年と老人の在り方」について県嘱託五島貞雄氏の講演があり、おじいちゃん、おばあちゃんは熱心に両先生の話しに耳を傾けていました。

この間に、アトラクションを開き伊方中学校のブラスバンド演奏や町内有志の踊りや歌がとびだし、たいへんなごやかで有意義なうちに閉幕いたしました。

なお、大会席上で表彰された方々と、優良老人クラブは、つぎのとおりです。

◎永年勤続役員（会長表彰）

篠川鹿太郎（川永田）
松村直市（二見）
堀内虎治（向）
中田弥（湊浦）
竹村管一（中ノ浜）
崎野実（伊方越）
上田数一（豊之浦）
菊池隆郎（加周）
浜田政助（古屋敷）
鳥津若松（鳥津）
敬称略

◎優良老人クラブ（町長表彰）

湊浦福寿会
川永田福寿会
二見福寿会

明治百年大会を記念して大会宣言が読みあげられた。

宣言

本日ここに明治百年を記念して開かれた老人福祉大会の参加者一同は当面、つぎの事項の実現を期し、これに全力を傾注することを決意してこれを宣言する。

一、経験と知識を生かして社会に貢献し明るく豊かな町づくりに努力する。

一、老人福祉年金の大巾増額と支給制度の徹廃。

一、ホームヘルパーの設置など老人対策の確立。

一、老人クラブの充実強化。

昭和四十四年四月七日

明治百年記念
伊方町老人福祉大会

◎児童福祉週間
五月五日（こどもの日）～五月十一日（母の日）
みんなで守ろう
こどもの権利
こどものしあわせ
おとなのつとめ

祝・祭日には国旗をかかげましょう

国旗は、国を象徴する旗です。純潔と平和を表わす白地に、万物の生長の根源である太陽をかたどった赤い丸を配したわが国の国旗「日の丸」は、日本民族の象徴として敬愛されています。

町内のみなさん、祝祭日には、全家庭が国旗をかかげましょう。

町議会が全国表彰

民主運営の手本として

本町の議会が全国町村議会議長会より優良議会として晴れの表彰の栄に輝きました。

この表彰は議会の機能を充分に発揮し、地方自治の本旨にそって議会運営の向上につとめるとともに、住民福祉を増進した功績が認められ表彰に浴したものです。

はえある表彰を記念する式典が三月一日中央公民館大ホールで、町議会議員、歴代正副議長、町外来賓多数が出席し挙行されました。

式典は菊池副議長の開式のことばがあり、町議会を代表して竹場議長のあいさつのあと県町村議会議長会長、八幡浜県事務所長、西宇和郡町村会長、西宇和郡議長会長、山本町長のお祝のことばがあり、最後に畠山郡町村会長（三瓶町長）の音頭によって、伊方町議会が、この表彰を契機にますます発展の途を願い万才三唱で盛大に閉式いたしました。

こんご町民の声を代表する町議会が町理事者と車の両輪のようにお互がしっかりと手を握り、現今の経済高度成長に伴う過疎現象に対する施策、多くの当面する諸問題に積極的にとりくみ、地域の振興と生活環境の整備をはかり、住みよい町、住みつく町、住みたくなる町づくりから都市に出ている若者が帰りたくなる町づくりとして向の議会運営が期待されます。

大成の海岸保全完成

大波がきても平気

完成を急いでいました大成部落の海岸保全施設整備事業が完成いたしました。

この事業は海岸を大波がきても安全に守るために行なわれたもので総工事費九六〇万円の多額のお金を投入してできあがり、延長は七十四mで海岸には六脚ブロック一九四個を積み上げました。

この六脚ブロックは、波を弱めるために設置されたものです。

大成地区は、伊予灘特有の大波が打ち寄せ、特に台風や冬期の激浪を防ぐためにつくられました。

以前、激浪時には背後の人家にまで波がおおいかぶさる状態でしたが、本事業の完成によって、これらの危害もなくなると、地元の人たちに大変よろこばれています。

新役員の紹介

◎母子推進員

助産婦、保健婦の仕事を末端まで浸透させるために協力員として母子推進員を設置しました。任期は一年です。母子の健康に関する相談は、つぎの方へお聞きください、相談にのってもらえます。

大浜　矢野三智子
〃　奥野エミ子
中之浜　堀内キヨ子
仁田之浜　兵頭トクエ
河内　吉井シノブ
山口福美
湊浦　是沢美邦恵
〃　松田皆子
小中浦　市末イサコ
中浦　井上茂子
川永田　小池マス子
〃　阿部浩子
豊之浦　辻利子
〃　寿美
伊方越　辻イシヨ
亀浦　兵頭清家
奥　城岡八重子
向　堀内キヨ子
畑　脇田マサミ
〃　山口福恵
須賀　加藤教子
久保　菊池キク
西　林ツヤ子
二見　上田照美
加周　二宮久恵
古屋敷　井上久子
大成　川田幸美
鳥津　岩井サカエ
二宮都子

人事異動

産業課長に二宮

四月一日付で町の人事異動がつぎのとおり行なわれましたのでお知らせいたします。

産業課長　二宮一（民生課福祉係長）
産業課振興係長　山口和哉（建設課管理係長）
産業課計画係長兼農地主事　西田恵明（産業課振興係長）
建設課管理係長　市尾隆志（建設課工務第二係長）
民生課福祉係長　上田宏（産業課振興係）
建設課　宇都宮力子子（会計室）
産業課　福井よし子（総務課）
会計室　中田いつみ（総務課）
総務課　中井一男（新採）
〃　菊池博史（新採）
〃　兵頭淑子（新採）
〃　松田美都子（新採）
伊方小学校阿部むらえ（総務課）
水ケ浦小学校加藤マスミ（新採）
九町小学校　広野寿美子（新採）
給食センター菊池美喜子（新採）
伊方保育所
渡辺紀代（大浜保育所）
若山イヨエ（豊之浦保育所）
上田数江（給食センター）
二宮一栄（新採）
松田トシミ（新採）
大沢美喜子（新採）
九町保育所
畑山千沙子（加周保育所）
松田コトミ（伊方保育所）
山田博子（大浜保育所）
加周保育所
上島多栄子（豊之浦保育所）
山田成子（九町保育所）
豊之浦保育所
上田サチカ（九町保育所）
上田千代子（新採）
大浜保育所
波内妙子（伊方保育所）
岡村成美（九町保育所）
退職　井上由紀子（伊方保）岡川加代子（伊方保）野村京子（給食センター）上田清子（伊方小）菊池万由美（水ケ浦小）兵頭可代子（伊方小）

老後の生活を守る

「国民年金」に加入しましょう

町民のみなさん、国民年金をご存知ですか。

国民年金は、いままで年金制度から取り残されていた農業や漁業に従事する人、商店の経営者などで働く従業員などのかたがたのために、国の責任において、老後や事故になる前提で、昭和三十六年四月にスタートしてから八年経過しています。

いま伊方町には、二七三人（町民三人に一人の割合）の国民年金加入者がいます。

国民年金制度が生まれた背景には、日本の人口問題が大きく影響しています。人口の増加が少なく寿命がのびますと、全人口に対する老人人口が大きくなります。

さらに、もう一つの大きな問題に、家族構成の変化があります。子どもが成長して一人前になりますと、親もとを離れて独立する夫婦単位の家族がふえています。

このような事情から、老後の生活は、自分の手で働ける若いうちから準備しなければなりません。

ここに、年金制度の大きな意義があります。

では、国民年金は何才からいくらの年金がもらえるのでしょうか。

何才からいくらの年金がでるか！

いま、国民年金に加入している人は、三十四才までの人が二五〇円、三十五才以上の人が三〇〇円それぞれ毎月保険料を納めています。このほか、国は加入者が納める保険料の半額を積み立てます。

保険料を納める期間は、二十才からだ十九才までです。そして、二十五年以上必要になっています。（年令の高い人は、二十四才～十年の間に短縮されています）

いまの年金額の計算方法は、保険料を納めた期間一カ月につき三〇〇円で行なわれ、二十五年納めた人は六万円、月額五、〇〇〇円、四十年間納めた人は九六、〇〇〇円、月額八、〇〇〇円になります。

しかし、間もなく法律が改正されるが定ですが、それが実現しますと、二十五年間納めた人が十五万三、六〇〇円、月額一二、八〇〇円になります。

制度が発足した当時にくらべてはるかに内容が充実してきました国民年金ですが、厚生年金とくらべて、日本の年金制度の二本柱としてこれから、さらに発展することでしょう。

現在、二十才をこえている人でどの年金制度にも加入していない人は、いますぐ国民年金に加入しましょう。

手続きなど、くわしくご相談は役場年金係へおたずねください。

ものしり手帳

毛深い身長から一〇〇を引く

ひと昔まえだが「うちの女房にもヒゲがある」という歌がはやりました。美さまのしりにしかれてしまった亭主がうたった歌でした。

人間には、からだ全体で二三〇～一四五万本の毛があるといいます。

全部生まれつきのもので、減ることはあっても、ひとりでにふえることはありません。

とくに女性で問題になるのは手と足の毛とヒゲです。

なぜ毛深くなるのか、原因のわからないのも多いですが、遺伝的なものもあるようです。またホルモンに関するものもあります。

ふやすのがむずかしいものは、減らすのはやさしいものです。

体重は健康のバロメーター。

昔に中年ぶとりは危険信号ですかといって若い女性のように、むやみにやせたがるのも考えものです。

あなたの標準体重（キロ）は、身長から一〇〇を引いた数の、上下一割以内とすればよいでしょう。

◎健康は心をつくる人つくる。

◎健康は生涯の宝物です。

十 救急クイズ (7)

（答）

☆ 団体旅行をしている場合などは気分転換に歌などを歌ってみてはどうですか。乗物酔いは交感神経の緊張が原因。まず神経をリラックスさせよう。

☆ 窓際から遠くの景色をみるのもよいでしょう。近くの景色をみるのは逆効果かえって酔がまします。

☆ 空腹すぎても、満腹すぎても酔いは起こります。腹八分目を。

駐在所だより

春の全国交通安全運動

どの事故も、みんな無理から油断から

春の全国交通安全運動が、五月十一日～二十日までの十日間、全国一斉に行なわれます。

毎年、春と秋の二回行なわれているこの運動は、死亡事故の半数近くを占めている歩行者の死亡事故はもちろんのこと、交通事故そのものをなくすることを目標とした国民総ぐるみの運動です。

すでに九・四フェリーも開通され、国道一九七号線の中央部に位置する伊方町では、さらに交通事故が心配されています。

みんなで交通ルールをよく守って交通事故の起きないよう努力しましょう。

ことしの交通安全スローガン

◇子供向け
みんなで　歩いているときも
一人一人がよく注意

◇歩行者向け
親からます　手本で示めそう
正しい横断

◇運転者向け
急停車されてもよい距離
よい速度

お礼

大阪市東淀川区田川通五の六三に住いて城崎プレス工業所を経営されている城崎邦彦氏（奥出身）より二千円、宮崎県日向市本町にお住いの宮本菱氏（亀浦出身）より三千円、神戸市垂水区北舞子三丁目二番十一の五八号にお住いの兵頭富喜子さん（川永田出身）より千円、神戸市長田区腕塚町九の五にお住いで福井堂を経営されている福井東氏（二田之浦出身）より千円、それぞれ広報編集の費用にと、ご寄付いただきました。

紙上より厚くお礼申し上げますとともに、ご健康と活躍をお祈り申し上げます。

厚生金庫へ九千円

田之浦の井上敏治さんから二千円、政木滝義氏（豊浦）、山神朝光氏（豊浦二）、井関孝子さん（伊方島）、上田秀宏氏（中浦）二宮慈慶氏（奥）、三根信真氏（畑）、玉井氏（二田之浦）より千円、それぞれ社会福祉事業に役立てほしいと寄付されました。

町内ではこの尊い浄財を更生金庫へ受入れ、町内に居住する低所得者の自立更生のために役立てることにします。

ここに紙上より各氏のご厚志に深く感謝申し上げます。

編集後記

薫風ほおをうつ楽しい陽気となりました。

五月号の広報紙ができあがりましたので、ここにお届けいたします。

今月号は、昭和四十四年度町の台所予算である一般会計予算の概況説明を掲載しました。これをみると三億円の大台を越え三億二千余万円の大型予算になりました。

このなかには、いよいよ本年度の大事業、庁舎建設費が計上されており五月末着工し現在庁舎跡に近代センスあふれる建物に建設されます。

また、二見小学校々舎が完成し学校教育の向上をめざして始動しました。

交通災害共済制度が四月一日より発足し、町内のみなさん多数が加入しています。

一日一円の掛金（年間大人三六〇円、中学生以下二五〇円）があなたを守ります。

いつでも受付けを町民室で行なっています。家族ぐるみで加入しましょう。

（Y・O）

人

昭和44年3月末現在　世帯数 2,454戸　人口 9,729人 { 男 4,664人 / 女 5,065人 }

婚姻

昭和44年2月1日～2月28日

出生

昭和44年2月1日～2月28日

死亡

昭和44年2月1日～2月28日

婚姻

昭和44年3月1日～3月31日

出生

昭和44年3月1日～3月31日

死亡

昭和44年3月1日～3月31日